

原発がこわい女たちの会 http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2015年07月 | トップ | 2015年09月 》

検索

2015年08月25日(火)

検索

若狭の未来を語るつどい

アーカイブ



京都府舞鶴市を過ぎると福井県高浜町。高浜を訪れるのは初めてだ。高浜は海水浴場として賑わい、いまも民宿経営は数多い。国定公園に指定された景勝の地だ。この日も長く伸びた砂浜と鏡のような水面に夕日のシルエットを映すのは青葉山(693m)。「若狭富士」ともよばれる美しい山だ。高浜の人たちにとって自慢の山にちがいない。のどかで平和な、守り育てていきたい海辺のたたずまいだ。

でもこの山から伸びた半島の付け根には、関西電力高浜原子力発電所が所在する(半島の山かげに隠れて原発サイトは見えない)。さらに、上の写真には写らない東側に突き出るのは大島半島。この先端には関西電力大飯原発だ。さらに小浜を越え東進して敦賀半島には関西電力美浜原発、日本原電敦賀原発、さらにふげん、もんじゅ。まさに、原発がひしめく原発銀座がこの若狭。高浜原発も大飯原発も、生活圏ではふつつ視界に入らないが、その存在を示すのが巨大な高圧送電線と鉄塔だ。原発サイトと関西の大都市をむすんでいる。



福井県地図と原発所在地

<http://www.houshasen.tsuruga.fukui.jp/pages/plant2.html>

さて先月のことになってしまったが、25-26日、福井県高浜町で開かれた「若狭の未来を語るつどい」(主催は「若狭の原発を考える会」)に参加してきた。

JR小浜線若狭高浜駅にあるまちの駅ふれあいルームで開かれ、参加者は若狭にとどまらず、関西各地や遠く関東からの老若男女であった。6月に「脱原発わかやま」の講演会に来て頂いた中嶋哲演さんも、基調報告に当たるお話をされた。

- 2016年11月 (2)
- 2016年10月 (1)
- 2016年09月 (1)
- 2016年08月 (2)
- 2016年07月 (4)
- 2016年06月 (2)
- 2016年05月 (1)
- 2016年04月 (3)
- 2016年03月 (2)
- 2016年02月 (3)
- 2016年01月 (2)
- 2015年12月 (4)
- 2015年11月 (2)
- 2015年10月 (1)
- 2015年09月 (3)
- 2015年08月 (3)
- 2015年07月 (2)
- 2015年06月 (2)
- 2015年05月 (2)
- 2015年04月 (2)
- 2015年03月 (2)
- 2015年02月 (2)
- 2015年01月 (5)
- 2014年12月 (3)
- 2014年11月 (2)
- 2014年10月 (2)
- 2014年09月 (2)
- 2014年08月 (1)
- 2014年07月 (2)
- 2014年06月 (1)
- 2014年05月 (3)
- 2014年04月 (4)
- 2014年03月 (3)
- 2014年02月 (1)
- 2014年01月 (3)
- 2013年12月 (4)
- 2013年11月 (1)
- 2013年10月 (3)
- 2013年09月 (5)
- 2013年08月 (1)
- 2013年07月 (3)
- 2013年06月 (5)
- 2013年05月 (3)
- 2013年04月 (2)
- 2013年03月 (6)
- 2013年02月 (2)
- 2013年01月 (3)
- 2012年12月 (2)
- 2012年11月 (1)
- 2012年10月 (2)



この会の趣旨は、特に福島事故後、若狭の人たちの間には、原発の安全性を危惧し原発は無い方がよいとしながらも、脱原発では生活や町の運営が立ち行かない、エネルギーが不足する、という意見があることを認めつつ、それでも、「原発は、事故や使用済み燃料のことを考えれば、経済的にも成り立たないことは大多数がみとめるところです。したがって、原発は遅かれ早かれ厄介ものになると考えられます」(チラシより)として、それならば再度の大惨事が起こる前に原発全廃をする(休止して放射線レベルの低下している今が廃炉のチャンス)。脱原発を前提に、未来に不安のない若狭をつくるため今何をどうすべきかの戦略を語り合おうよ、というものだ。

次の3分科会でそれぞれ2～3人の話題提供者を立て検討を進めるという形式で行われた。

- ① 原発を拒否した町の運動と現状
— 原発や、沖縄での基地を拒否した町の現状とそれらに依存しないために(ここでは白浜町議の西尾智朗さんが和歌山の事例を報告した)
- ② 原発のない町づくりへの挑戦
— 地元福井での町づくり、町おこしの事例、柏崎刈羽からの報告
- ③ 脱原発へのチャレンジ
— 脱原発へ向けてエネルギーの未来、廃炉過程と廃炉ビジネス

どれも魅力的なテーマでどこへ参加するか迷うほどだが、私は③の分科会「脱原発へのチャレンジ」に行った。参考になることが多々あったので、長くなるがまとめて報告しておきたい。

まず、**松下照幸さん「美浜町での脱原発へのチャレンジ」**

松下さんは、地元美浜町で廃炉や使用済み燃料問題に取り組みながら、「森と暮らすどんぐり倶楽部」を主宰し、自然体験活動など林業での地域ビジネス事業化など積極的に幅広い活動を展開されている方だ。今回は、2013年2度のドイツ地域経済の実地見聞をもとに、地域の経済再生について語られた。そのキーワードは「**地消地産**」と「**本質的議論**」だ。

地消地産は、「地産地消」とは少し違って、地域で必要なものは地域で生産し、消費する、つまり**地域で自立**することを意味する。「食」に限らず、「住」「エネルギー」「人材」など多面にわたっている。

たとえば、地域の経済活動になう人材は地域で育てること。日本では、子どもたちに投資して優秀な人材を育てても、田舎には能力に見合う雇用がないので、地域に戻って成果を出してもらうことができない。しかしドイツの大都市はせいぜい人口100万規模、ドイツの田舎には雇用があるので大都市への集中化は起こりにくいのである。

またエネルギーの自給については、原発廃止で電気がなくなる分を再生可能エネルギーで発電するという考え方ではなく、多様化が図られている。国によるコージェネレーション(発電と熱供給を同時に行う)への政策誘導もあって、地域でエネルギー会社を無数に設立して、酪農からのメタンガス、木質バイオマスなど、農地や山林が効果的に活用され日本にあるような荒廃畑や山林は見られないそうだ。

住についても、家屋の断熱化を徹底してエネルギーをできるだけ使わない仕組みを作るのがまず基本であって、そこに再生可能エネルギーを入れ込むというやり方。断熱改修工事は、地域の工務店需要を引き出すことになる。大手ハウスメーカーにお任せなどありえない。蛇足だが、私の見聞ではドイツの田舎のほうにいくと地下室にDIYの大工道具を取りそろえ、少々の改修は住人自らがハンドメイドでやってしまうことも多い。それだけの技術と生活感覚をドイツ人はもっている。

そしてもう一つ地域の再生にとって不可欠なのが、地域住民の存在である。先進的な自給に成功している地域には、「利発な市民」の活動があるが、意識的で活動に参加する人たちがそう多いわけでもないのは、日本と同じらしい。しかし地域のリーダーや政治家がしっかりした**本質的な議論**を行っているという

2012年09月 (2)
2012年08月 (2)
2012年07月 (4)
2012年06月 (4)
2012年05月 (3)
2012年04月 (1)
2012年03月 (1)

最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民
守 正義(08/21)
そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
コメントありがとう by sora
(12/05)
突然すみません。東京 by 里美(11/22)
10/26と11/29のチケット by 角谷(10/23)
starさんコメントあり by sora
(09/14)
このブログを読むまで by star(09/13)
こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
現在稼働している大飯 by star(04/09)
廃炉産業を起こしてほ by kaziwarayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2015年08月 >						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発
美浜3号も廃炉に！ 11・13
琵琶湖集会(11/15)
汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)
原発がこわい女たちの会
ニュース99号発行(10/12)
高速増殖炉もんじゅ廃炉へ
(09/27)
老朽原発・美浜3号機は廃炉
に！パブコメを出そう(08/28)
ピースボートで韓国古里(コ
リ)原発を見学してきました
(08/21)
熊本地震の経験から原発の
耐震性見直しを要求し、25
団体で共同声明を出しまし
た(07/22)
老朽原発・関西広域連合へ
要望書と和歌山県との話し
合い(07/17)
原発のない社会を投票で示
そう！(07/05)

のが特長だそうで、これが二つ目のキーワードである。

地域にある小さな資源を活用して効率的に生産する地域のシステムを徹底して「考え抜く」ことを投げ出したり、集団のなかに納まることの居心地の良さを優先して個を抑え議論を避けていたりでは、本質的な議論は成り立たない。われわれ日本人には耳の痛いことである。

もう一人は、**木原壮林さん「原子炉廃炉と廃炉ビジネス」**

(若狭の原発を考える会代表・元東海村原研研究員)

2015年、日本の老朽原発5基の廃炉が決定した。日本原電敦賀1号、関西電力美浜1号・美浜2号、中国電力島根1号、九州電力玄海1号である。ほかにも廃炉(正式には廃止措置という)は、どのような経緯をたどるにせよ、今後は不可避な問題である。

木原さんからは、東海・動力試験炉、浜岡、ドイツ・ルブミン、福島第一など、国内外の廃炉完了～計画中の原発の技術的社会的な問題を広範にお聞きした。これまで言葉として知っているだけで、具体的なイメージができなかった事柄が、現実味を帯びて掴めてきそうである。

●廃炉手順:核燃料冷却に6箇月から3年→核燃料搬出→系統除染(配管などの放射性物質除去)→安全貯蔵(原子炉など高レベル放射性物質の減少に5～10年)→解体撤去→廃棄物の処理処分。
これは通常停止した原子炉の場合である。また使用済み核燃料の処分は含まない。

●これまで小型の研究炉や原子力船むつなどの原子炉は廃炉になったが、大型実用炉の廃炉はこれからの課題である。

日本で唯一廃炉が完遂したのは、東海村の動力試験炉(JPDR)。1976年運転終了。1996年解体終了。

●廃炉に関わる問題点として

・30年以上前に建設された原子炉では当時の設計図が残されておらず、解体作業に支障をきたす。(信じられないような話です)

・大量の放射性廃棄物の処分法が未定で、とくに**使用済み核燃料など高レベル廃棄物の問題**。中間貯蔵地の安全維持体制確立が重要となる。

・世界では廃炉待ちの原発が100基以上。1基あたり最低500億円と費用は膨大である。

●さらに廃炉ビジネスの問題点として、

・**雇用は維持できず**、原発稼働時の4割以下(ドイツの例)。

・地域は潤うか?～稼がない施設に予算は削減され、労働者は放射線下の環境で地元に金は落ちない。

・企業利益で廃炉を進めると、労働者(下請け孫請け)の被ばくや廃棄物のずさんな管理に繋がる。

●まとめ

廃炉ビジネスで雇用は維持できない。それでも、大事故が高確率で起こる原発は、早く廃炉にしなければならない。

ただし、安直な廃炉ビジネスは大企業の利権主義に陥りやすく問題が多い。廃炉推進を前提として、脱原発後の地域の再生プログラムを考えることが不可欠。大企業の利権主義に対抗して、いかに住民が考えるか主導権をとるか。地方自治体の役割は大きい。また国レベルの政治を脱原発に向けさせることが大前提である。

参加して感じたこと

廃炉にはどのような問題が横たわるのか、まずはその実態を知らなければ始まらない。単純に廃炉ビジネスに地域の将来を託すのは幻想であるとの警鐘もよくわかった。

後の全体会で若い人から「原発の危険性を強調するだけでなく、廃炉すればこんないいことありませ、とアピールすることが大切」、という発言があった。一理ある。

原発推進政策の下では、交付金等は地域振興に役立ったとはいえない、立地地域よりも近隣町村のほうがむしろまちおこしに頑張って、自立の芽を育てている。とも聞いた。脱原発後のイメージを描き、「小さな成功例を積み上げて、地域が自信を持つ」ことが大切なのだ。

翌日、課題意識を新しくいろいろ抱えての帰路は、鯖街道を経てJR湖西線回りにした。JR小浜線上中駅前から乗り込んだ路線バスは、40分ほどで近江今津に着く。原発銀座から近畿の水がめ琵琶湖まで、こんなにも近いのだと、青い湖面をみながら再認識したことである。

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ

記事の投稿

管理

RSS

ログアウト

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します

2015年08月16日(日)

ピースボートで脱原発ツアー

「平和で持続可能なアジアの未来」をめざして、ピースボートと韓国のNPO『環境財団』が共同で開催する船旅PEACE&GREEN BOAT。日本と韓国からほぼ同数の参加者がひとつの船で生活を共にしながら、第8回の今年は釜山・ウラジオストック・小樽・長崎・博多を10日間でめぐるショートクルーズです。

これに乗船し、8月10日、最後の寄港地である博多では、①九州電力本館前行動、②玄海町役場への要請、③玄海原発エネルギーパーク見学を含むオプショナル・ツアーに参加してきましたので、簡単に報告します。なおこのツアーへの参加者は約40人、もちろん韓国の人もあります。

① 九州電力前行動は、事前に「原発再稼働に関する質問・要請」がしてあったのですが、九電が回答しなかったため、地元の反原発市民団体の方々と一緒に抗議行動をしました。九電ビル前で「原発いらない!」「原発廃炉!」「川内原発再稼働反対!」など、シュプレヒコールで抗議しました。川内原発再稼働が予定されている前日ということもあって、熱気あふれる集会でした。



九州電力本館前で

② その後、地元の方の説明を受けながら、玄海町役場へ行き、「世界中の人々の安全と安心、そして未来のために玄海原発再稼働を認めないください」という要請書を渡しました。噂によると、数日前にはお元気だった岸本英雄町長が急に病気になられたとのことで、町長には直接手渡すことができませんでした。



玄海町役場で

③ 玄海エネルギーパークも見学しました。九電による見学・PR施設です。町役場は人口6000人の町の建物としてはとても立派でしたが、ここも莫大な

費用をかけて作られた施設です。入口付近にある最初に目に入る映像は、噴煙を上げる桜島や雲仙岳でした。九州の名所案内のつもりでしょうが、火山国に原発を建てる無神経さの表れだと思いました。



エネルギーパークから玄海原発を臨む（遠方ドーム型が3, 4号機）

【補遺】

前日9日には、長崎平和祈念式典に行きました。さらにこの夜の船内行事では、田上富久・長崎市長の訪船があり、被曝70年のお話を聴くことができました。また、「水先案内人」として乗船した菅直人・元総理、上原公子・元国立市長、飯田哲也・環境エネルギー政策研究所長らによる、3・11の教訓とエネルギーの未来についてのシンポジウムもありました。
(M)

2015-08-16 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#) |

2015年08月12日(水)

九州電力川内原発再稼働に抗議します

8月11日、川内原発1号機が再稼働されました。新規制基準に基づく初めての事例です。

「世界でも最も厳しいレベルの新規制基準」(どこの国と比べたらそうなるのか)、そのレベルの規制基準に適合すると認められた場合は原発の再稼働を進める、というのが自民党政権の方針です。でも責任は政府はとらない。

新規制基準には「絶対の安全は無く」、原子力規制委員会の審査には問題が山積しています。火山学者不在のまま巨大噴火のリスクを不問にしたこと、地震関連では過小評価が指摘されること、フィルター付きベントなどの設置猶予、30年以上の高経年対策の無視、などの事実が脱法的認可といわれても仕方ありません。何のための規制委員会なのでしょう。「推進委員会」とのこき下ろしもむべなるかな。

さらに審査対象にもならない避難計画にいたっては、まったく整っておらず避難訓練もなく、実効性の無さには地元住民からも不安の声が噴出しています。施設入居の要援護者の避難の世話は誰がするのでしょうか。住民の一時移転先は決まってもその先どうなるのでしょうか。福島原発事故の教訓が生かせるようになっているとは、とても思えません。

すでに福島原発事故の影響を無視できない数の子どもたち100人以上が甲状腺がんになっています。これだけでも原発を動かすべきではないのです。

福島の原発事故がまるで無かったかのような、「安全神話」復活の原発再稼働です。そもそも福島の原発事故の原因がまだわからない、核燃料が溶融した炉の状態を観ることもできない状況の中で。

2015-08-12 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#) |

RSS 2.0